

忘却の彼方で再会を

構成・演出
作

鳥居和真
中島千尋

登場人物

ノア（時計技師）

ララ（からくり人形）

大和（翻訳家）

麗奈^{レナ}（冒険家）

オリビア（忘却の魔女）

アイザック（冒険家）

ティア（人形使い）

ルカ（からくり人形）

レオ（新聞記者）

エイミー（魔女狩り）

■ 零場

開場中。

客席には、ニュースのようにエイダの街のことが断片的に流れている。

SE 鐘の音

定刻。

汽車の音がだんだんと大きくなり、汽笛が鳴り響く。

SE 汽笛音

御伽噺が始まる。

NA

その昔、エイダという街に、ひとりぼっちの魔女が住んでいました。ある日のこと。魔女は街の外れで壊れかけのからくり人形と出会いました。人形はポロポロの身体で踊りを披露し、魔女は感動して涙しました。踊りのお礼に魔女は人形の身体を直し“人間のよう動ける魔法”を贈りました。それから“ララ”という名前を与え、二人は幸せに暮らしました。それから何年かが経ちました。その頃、エイダの街では争いが起こっていました。

「突撃ー!!!」

ララにとって人々の苦しみや悲しみ、そうした負の感情に触れることは初めてのことでした。負の感情に吞まれたララはやがて暴走してしまいます。殺戮人形と化したからくり人形を街の人は壊せと言いました。

「壊せ!!!」

「壊せ!!!」

「殺戮人形を壊せ!」

しかし、心の優しい魔女にはそれができませんでした。魔女は魔法を使い、戦争を終わらせることにします。

オリビア

「ララ、アイのある人間ひとになりなさい」

NA

魔女はそう告げ、姿を消しました。心優しき魔法使いによる魔法で、正常な心を取り戻したララは今もなお、アイとはいつたいなんなのかを探しに、この街のどこかを彷徨っていると言われているのです。

照明が変化する。

SE 汽笛音

SE 蒸気機関車の音

舞台上にエイダの人々が現れる。

そこに迷い込む大和と麗奈

麗奈

大和！ ほら見て、すごい！！

大和

そんなに急いだら危ないよ、姉さん。人も多いしそれに、あ、ほら前見てったら！

麗奈

大丈夫！ それより大和、見て！ やっとたどり着いた。ここが、私たちの目的地

大和

“姿なき街エイダ”・・・確かにすごい。どこもかしこも歯車だらけだ

麗奈

蒸気機関が発展してるからなんだって。

大和

蒸気機関・・・

麗奈

この街で前を見て歩くほうが難しいと思うの！ だってこんなにワクワクするんだよ！

大和

だからってそんなにはしゃいだら姉さん、

麗奈

大丈夫！ 自分のことは自分が一番よくわかってるから。さ、行こ！

大和

あ、ちょっと待ってったら！

大和・麗奈、人の波を縫ってはけ。

二人が去った反対方向からノア、入り。

手にはスクラップボックスを持っている。

ノアが現れると街の人はストップモーションになり口々にノアの

悪口を言う。

街の人
街の人
街の人
街の人
街の人

あれが時計技師のノア
薄汚い
彼の声を聞いたことのある？
ないわ
口が聞けないのかしら
気味が悪い

など。

次第に街の人は四方八方へと去っていく。
パネルがシャッターすると舞台はスクラップ置き場に。
ノアがスクラップ置き場に近づこうとすると音が聞こえてくる。

SE 不思議な歯車

格子が開くと壊れかけのララが現れる。
舞台中央へ移動しそのまま崩れ落ちてしまう。

ノア
ララ

．．．．．あの、
アイは．．．どこにありますか？

ノア

これが、僕と彼女が出会った瞬間だった。そして、この出会いは．．．僕
たちの物語のサイカイを意味していたんだ。

ノアの台詞中に、ゼンマイが切れたかのように動かなくなるララ。
ノアは、ララを背負い自宅に連れて行く。

場所…ノアの部屋

SE 時計の針

ノアは、ララを降ろし横に寝かせる。
修理を始めるノア。

ノア ……よし。これで大丈夫。

ララ ……ここは、

ノア ……え?!

ララ こんにちは。

ノア ……こ、こんにちは。

ララ ここは、あなたの家?

ノア ……そ、そうだよ。……勝手に連れてきて、ごめん。

ララ あなたが、ララを助けてくれたんですか?

ノア ……

ララ ……違うの?

ノア あ、いや! うん、そう。僕が治した。君はその、

ララ ありがとう! 前よりずっと調子がいいです!

ノア 僕は時計技師だから、カラクリを扱うのには慣れているんだ。あ、…ごめん。

ララ どうして謝るの?

ノア 君は、…からくり人形、なんだよね?

ララ はい。ララは、踊りの得意なからくり人形です! 一曲、踊りましょうか? 歌

を歌ってもらえますか?

ノア だ、大丈夫! 大丈夫だから…あのさ。君は、からくり人形なのにどうし

て、僕と会話ができるの?

ララ ……普通はできないの?

ノア そうだ。普通は喋らない。人形は、決められた動きしかできないんだ。

ララ ……?

ノア こんなの…あり得ない。

ララ でも、ララは

ノア わかっている。君がカラクリだから、治すことができたんだ。教えてほしい。君

ララ は一体、

(遮る) その質問には答えられません…。

ノア ……え？

ララ だって、わからないから。

ノア わからない？

ララ はい。ララはずっと歩いていました。ララはずっと、探しています。

ノア ……何を？

ララ アイは…どこにありますか？ あの…前にどこかでお会いしましたか？
え？

ララ (首を振って) 思い違いかもしれません。改めてお礼を言わせてください。え
っと…

ノア 僕は、ノア。よろしく。

ララ ララは、

ノア ララ。でしょ？

ララ どうして、

ノア 君は、自分のことを名前で呼ぶじゃないか。よろしくね、ララ。

鐘の音が鳴り響き、舞台が移り変わる。

場所…エイダの繁華街

台上から麗奈、大和が地図を見ながらやってくる。
フラとノア、入れ替わりではけ。

大和 エイダは一日ごとに姿を変えることから、“姿なき街エイダ”って呼ばれてるんだ。そんな街で、どうやって地図を読めと？ あ、ちよつと姉さん！

麗奈 大丈夫だって！ 私、一応冒険家なんですけど。

大和 信用できない。

麗奈 こういうのは、お姉ちゃんに任せなさいって！ ほら、言うでしょ？ えーつと、んー………旅は道連れ？

大和 ……(ため息)

すると突然、パネルが動き出し地形が変化する。

大和 うわ、なんだ？！

麗奈 え、ちよつと、

大和、はけ。舞台上には麗奈だけが残る。

麗奈 大和？ ねえったら！ 大和！ 大和ー！！ ……大和お…

ローブの男(アイザック)入り。

後ろから声をかける。

男 大丈夫ですか？ こちら辺は、………麗奈？
麗奈 え？

男 麗奈！ うわ！ こんなところで会えるなんて！

麗奈 その声……

アイザック (フードをとる)俺だよ、俺！

麗奈 アイザック?! 嘘！

アイザック 身体は？ 大丈夫なの？

麗奈 うん、今はね。でもまさか、アイザックとこんなところで会えるなん

て！

アイザック

俺もびっくりだよ！

麗奈

どうしてここに？

アイザック

ちよつとね。麗奈は？

麗奈

私は・・・私のために、来た！やっぱり、私の身体・・・もうダメみたいで。

アイザック

・・・そっか。

麗奈

やめてよー！ もー、そんな顔しないで！

アイザック

この街へは来たばっか？ ここまで、長かつたら？ 大丈夫だった？

麗奈

これでも、冒険家だよー？ まあ、“元”だけどね。なに、心配してくれてるの？

アイザック

当たり前だろ！ 麗奈は俺のバディだ！

麗奈

それは、昔の話でしょ！ それよりアイザック、聞いてよー！ その、弟が見つけてきた方法なんだけどね？ アイザック、『忘却の魔女』って知ってる？

アイザック

ああ、この街の民話だろ？ 御伽噺として親しまれてるって

麗奈

そう！ その、魔女に治してもらうって言うんだよ！！！？ 信じられる？！

アイザック

え？

麗奈

られないよね？ だって、御伽噺の中の魔女だよ？ どう考えても馬鹿げてるでしょ！

アイザック

・・・そうかな。

麗奈

そうだよー。でも、私ワクワクしてるんだ！ 多分これが、私の最後の冒険だから。

アイザック

・・・そっか。なんか安心したよ。

麗奈

え？

アイザック

麗奈は、麗奈なんだなって。

麗奈

何それ。

アイザック

そういえば、・・・弟さんとはぐれたとかなんとかって

麗奈

そうだった・・・！！！！！！！！

アイザック

相変わらずだな。俺も手伝うよ。

麗奈

ありがとう、アイザック！！

舞台上が再び変化していく。

麗奈、アイザックは違う場所へ移り、
舞台上では大和が一人、エイダの街を彷徨っている。

大和 地図、落とした……さつきもここ通った……姉さんいない……
もうだめだ……

謎の女性（オリビア） イン。

女性 大丈夫？

大和 ダメに決まってるだろ……なんてことを聞くんた……あ、すみま
せん！

女性 別に。

大和 いや本当に！ お恥ずかしい……ちよっと、あ、いや、かなり僕、
今迷子で、だから大通りに、僕迷子、姉さんがその、あ、えつとで、
あの、ハハ……迷子なんです、僕……

女性 落ち着いて。大丈夫だから。

大和 大通りはどっちですか……

女性 あっち。この道をまっすぐ。

大和 ありがとうございます……助かりました……

大和が立ち去ろうとすると、そこにローブの女（エイミー）が現れる。

ローブの女 見つけた。

大和、二人が気になり振り向く。

ローブの女 はいかイエスで答える。お前は魔女だな？

SE 銃声

謎の女性、倒れる。

大和 ……え？

大和、慌てて女性に駆け寄る。

大和 大丈夫ですか！！ 今、助けを（脈を測る）……………そんな……………

ローブの女 離れる。邪魔だ。

大和 なんでこんな酷いことをするんですか！！

ローブの女 酷いこと？ むしろ感謝されてもいいくらいなんだが。そいつは魔女
だぞ

大和 魔女？

ローブの女 私は、魔女を処刑しただけだ。酷いことでもなんでもない。当たり前
のことをしただけだよ。

大和 当たり前のこと？ 人を殺すことができますか……………？

ローブの女 何度も言わせるな、そいつは魔女だ。人じゃない。

すると、オリビアが立ち上がる。

大和 ……え？

銃を構える女。

大和 銃を降ろしてください！

ローブの女 これを見てもまだ、殺すなって言うのか？！ あんなの、化け物以外
の何者でもない！

大和 でも、

ローブの女 お前があいつの味方するって言うんなら、危険分子とみなしてお前も
処刑する。

大和 なんだって？！

ローブの女 同じことを2回言わせるな。

すると、謎の女性に光に粒が反射する。

突然、街は再び動き出し、三分割されてしまう。

ローブの女、無線機のようなものを取り出し仲間と連絡を図る。

ローブの女 対象が一人だとは限らない。全ては平和のためだ。

大和は追われている謎の女を探すが、ローブの女の仲間に見つかり
逃げる。

いつの間にか舞台上の群衆（ローブの者たち含め）は、シルエットとなり、舞台の四方から人々の影が舞台上に集まり止まる。群衆にはノアとララもいる。

ノアとララのシルエットだけは止まらず動いている。
2人だけに薄暗く明かりが当たると、それ以外のシルエットは後退りをするように彼らから次第に離れていき、舞台上には2人になる。

あの、

．．．．．

挨拶に行ってもいいですか？

．．．．．え？

さつきから、．．．ほら！ 街の人がこつちをチラチラ見えています。お友達になりたいのかもしれませんが。

．．．．．頼むから。

え？

頼むから余計なことはしないでくれ。

大丈夫です！ そうだ！ 踊りを踊りましょう！ みんなが幸せになれる踊りがいいです。ノアも、

．．．．．やめてくれ。

でも、

違うんだよ、ララ。彼らは友達になりたくて僕を見ているわけじゃない。僕のことを嫌いだから、気味悪がつて見ているだけなんだ

．．．嫌われている？

．．．．．そうだよ。

じゃあ、教えてあげましょう。

．．．は？

だって、ノアは悪い人じゃありません。怖くないよ、つて教えてあげましょう。

ララ！

ノア

ララ

ノア

ララ

ノア

ララ

ノア

ララ

ノア

ララ

ノア

ララ

ノア

ララ

ノア

ララ

ノア

ララ

ノア、ララを乱暴に掴み殴ろうと拳を振り上げる。
街の人がざわつく。

ララ
ノアは……悪い人じゃありません。ララを助けてくれました……。
(手を下ろし離れる)……ごめん。

ノア、歩き出す。その後ろをついて行こうとするララ。

ノア ついて来ないでもらえるかな。

ララ でも……、

僕は君に、酷いことをしようとしたんだよ。

ララ それがなんですか？

ノア だから、

ララは、アイを探しています。ノア。アイを知りませんか？

ノア ……そんなもの、知らないよ

ララ そうですか。

ノア だから、

では、探しましょう。

ノア ……え？

ララと一緒に、アイを探しに行きましょう！

舞台上の不気味な薄暗い照明に変わり、

2人の中から大和が駆け込んでくる。

ノア・ララ、はげ。

舞台中が薄暗く誰かを探すかのように照明が街中をサーチする。

大和がモノ陰に隠れるとそこに数人ローブを着たものたちが現れる。

ローブの者たち そっちにいたか？

ローブの者たち いいや、いない。そう遠くへは行ってないはずだ。

ローブの男の一人が、人間の気配を感じ取り大和の方に向かってくる。

大和 ……っ！

アイザック、入り。

背後から声をかける。

アイザック 動かないで。
大和 ……!!!

ローブの者たち どうした？
ローブの者たち ……いや、なんでもない。

去っていく、ローブの人たち。
大和とアイザック、舞台上に姿を現す。

アイザック いや〜！ 危なかった！ 怖がらせてごめんね。奴らに見つかると面倒なんだ。

大和 あなたは……！

アイザック 僕は、君の味方だよ。お姉さんに頼まれて君のことを、

大和 (遮る) 姉は!!! 姉は、無事なんですか？！

アイザック ……あ、ああ。うん。麗奈は無事だ

大和 麗奈?! 姉のお知り合いの方ですか？

そこに駆け込んでくる麗奈。

麗奈 大和!!!!!! よかった!

大和 姉さん!!! (すぐに麗奈に駆け寄って解放しようとする) 走っちゃダメだ
ってお医者さまに言われてるじゃないか!

麗奈 ちよつと〜、心配して駆けつけた姉への最初の一言がそれ?!

大和 僕はどうだっていいよ! それより姉さんは? なんともない?

麗奈 大丈夫だって! も〜。過保護すぎだよ〜。

大和 よかった……!

麗奈 (アイザックに向かって) ごめんね、ほんと

アイザック 結構危機一髪だったんだけどな、君の弟君。

大和 あ、あれくらい僕一人でもなんとかなりましたよ!

アイザック そうかい?

麗奈 そうだよー? 私と違って、優しい子なんだから

アイザック 君だって充分優しいじゃないか

麗奈 もう! そういうのはいいの!

大和 (仲良きそうな二人を見ながら) ところで、助けて頂いたのにお礼も言わ
ずにすみません。あなたは……?

アイザック 僕は、アイザック。冒険家だよ。麗奈とは昔一緒にバディを組んでいたん

だ。

大和

ああ、あなたが！ お噂はかねがね！

アイザック

へえ、麗奈。お噂はかねがねだつて？

麗奈

冒険の話をしていただけ。

大和

先ほどは本当にありがとうございます。

アイザック

君らが無事で何よりだよ。さ。帰ろう。宿舎はどこ？ 送っていくよ。

舞台上は真ん中の照明が収束するように、暗くなっていく。

舞台は暗転したまま。
SE レコードを流す音

NA

その昔、エイダという街に心優しき魔女がいました。ある日のこと。魔女は街の外れで壊れかけのからくり人形と出会いました。人形はポロポロの身体で魔女を楽しませようと踊りを披露しました、魔女は大変喜び、感動して涙しました。踊りのお礼に魔女は人形の身体を治し、“ララ”という名前を与えました。そして、ある魔法をかけたのです。

”人間の自由に動ける魔法を”

このナレーションが流れている時、舞台上には“何か”の灯りが舞台上を漂う。

SE ドアベルの音

舞台上センターには机と御伽噺『忘却の魔女』が置かれている。明かりが付き、場所がエイダの繁華街の雑貨屋になる。
台下から、ノア・ララ入り。

ララ

ノア！ 次はここです！

ノア

別にいいけど、そんなに毎日出歩かなくなっちゃったっていいじゃないか。一人で行けない？ 僕、

ララ

行けません。一緒がいいです！ あ！（本を手取る）これは本です

ノア

・・・そうだよ。これは、本。御伽噺『忘却の魔女』。懐かしいな、これ昔僕も持ってた気がする。

ララ

・・・御伽噺？

ノア

知らない？ この物語は、御伽噺と言っても民話みたいなもので、エイダの街の昔話なんだ。この街の人なら誰だって知っている。

ララ

ララは知りません。

ノア

・・・読みたいの？

そこに、女店員がやってくる。(ロープ有り)

女店員

ノア

いらっしやいませ。何かお探しで(ララを見たまま固まる)……………

ララ

ノア、これが欲しいです。

ノア

いいけど、ララ文字読めるの？

ララ

ノアが読んでくれます！

ノア

……わかったよ。すみません。これください。

女店員

ノア

……？ あの、

女店員

……………

ノア

あの！！

女店員

あ、ごめんなさい。は、はい。

お会計を済ませてノア・ララ、はげ。

SE ドアベルの音

SE 列車のベル

レオ、入り。

レオ

……………ここが、蒸気と歯車の街“姿なき街エイダ”

そこに、偶然通りかかるエイミー。

エイミーは、処刑人だが、仮の姿である時計技師の格好をしている。

レオ

あの、すみません。少しお話いいですか。

エイミー

……はい

レオ

俺、今この街に着いたばかりなんですけど、あなたはこの街の人ですか？

エイミー

そう、だけど。

レオ

お名前聞いても？

エイミー

教えてあげてもいいけど、まずあなたから名乗るべきじゃない？

レオ

確かに。いや、これは失礼。俺はレオ。よろしく。

エイミー

……エイミー

レオ エイミー！・・・どこかへ行かれる最中ですか？
仕事帰り。

レオ お仕事は何を？

エイミー ちょっと質問攻めすぎるんじゃない？

レオ 嫌だった？ 職業柄、つい。

エイミー 時計技師。この街が蒸気と歯車の街ってことぐらい知ってるでしょ？

私たち時計技師はそのシステムの整備をするのが仕事なの。で、あなたは何をしにこの街に来たの？

レオ 俺、新聞記者なんだ。

エイミー 記者？ あー、それで。

レオ 不審に思わせてごめん。この街ってほら、・・・普通じゃない。蒸気と歯車のギアシステムはこの街独自のものだし、色々謎に包まれてるだろ？ 俺は、その秘密を暴くためにここまで来たんだ。

エイミー (じつとりと睨みつける)

レオ 本当だよ！

エイミー 暴くってなに？ それって必要？

レオ 必要、かどうかはわからない。それでも、俺は知りたいって思ったんだ。

エイミー 何か知っていることがあったら、

(遮って) あいにく、私があなたに教えられることはないの。それに、その真実はいずれ虚構となる。

レオ それってどういう、

エイミー ・・・じゃあ、私行くね。

去ろうとするエイミーを呼び止めるレオ。

レオ それでも！！・・・それでも俺は真実を追い求めるよ。それが新聞記者ってもんだろ

エイミー ・・・夢ばかり語って子供みたい。

エイミーはけ。

レオ 夢を語ることの何がいけないんだよ・・・

レオ、はけ。

SE 劇場のベル

舞台上、暗くなっていきストロボのような照明。

白布が降りてくる。

ティア、入り。

舞台中央にティアがおり、スポットライトが当たる。

お辞儀をすると音楽がかかる。

舞台上下からルカ含めからくり人形たちが現れ舞い、パフォーマンスを披露する。

途中から次第にそのシルエットは少なくなっていく、舞台上には、ティアとルカのみ。

お辞儀をするティア。

踊り終わり、手に持った帽子を観客に抜けてお金を要求し、

ワンコインだけ入れてもらう。

SE・・チャリーン

音の後にティアとルカは元気に再びお辞儀をする。

暗転

場所…大和と麗奈の泊まっている宿舎
深夜。ほとんどの人が寝静まった時間。

大和、入り。

アイザックが姿を現す。

アイザック

やあ。ごめんね、こんな夜更けに。

大和

話って何ですか。

アイザック

麗奈のこと。僕も、協力させてもらえないかな。

大和

き、聞いたんですか？

アイザック

聞いたって何を？

大和

忘却の魔女のこと…

アイザック

(大きい声) お伽話の中の存在に会おうっていうんだもんなあ!!!

大和

ちよつと!!!

アイザック

ごめんごめん。君、面白いね

大和

・・・やめてくださいよ。こんな時間ですし、それに

アイザック

それに？

大和

自分でも、馬鹿げてるって思います。でも、

アイザック

馬鹿げてなんかないよ。・・・馬鹿げてなんかない。

大和

信じてくれるんですか?!

アイザック

ああ。

大和

・・・ありがとうございます。

アイザック

あのみ、

大和

はい？

アイザック

僕がここに来た理由も、君らと同じなんだ。

大和

・・・え？ それ、姉さんは、

アイザック

言っていない。

大和

どうして！ 姉さんそれ聞いたら多分、

アイザック

君は、実のところどう考えている？ 忘却の魔女はいると思うか？

アイザック、旅先で手に入れた御伽噺『忘却の魔女』を取り出す。

アイザック

これを見てほしい。

彼は、自分が持っている御伽噺『忘却の魔女』を取り出すと

最後のページを大和に見せる。

そこには、赤い文字で一言書き殴ったように言葉が書かれている。

『魔女は、存在する』

大和
こ、これは……！！

アイザック

これは旅先で手に入れたものでね。偶然このメッセージを見つけた。おそらく、僕らの他にもこの街の御伽噺を信じてやってきたものがいたんだろう。

大和
でも、どうやって魔女を見つけるつもりですか。

アイザック
この本には魔女の他にも登場人物がいるじゃないか。

大和
……からくり人形のララ。

アイザック
魔女がいるなら、ララもいる。彼女なら、何か知っているかもしれない。

大和
そっか……それなら！

アイザック
協力してくれるか？ 大和。

大和
姉さんのためなら、僕、何だってやります。

アイザック
そう答えてくれると思ったよ……ひとつ約束してくれるかな。

大和
何ですか？

アイザック
このことは、麗奈には内緒にして欲しいんだ

大和
何ですか？ 姉さんだって、

アイザック
彼女に心配かけたくないんだ。

大和
……わかりました。

アイザック
これは、男の約束だ。

アイザック、手を差し伸べる。大和、その手を受け取り、
二人、握手をかわす。

アイザック
早速だけど……

歯車の音が大きくなっていく。

(音が大きくなり、言葉が消されていく)

アイザックと大和を巻き込むようにエイダは変化していき、
別場面へと移り変わる。

ティアとルカは雨の降る前まで曲芸の練習をしていたため、
ずぶ濡れになりながら屋根のあるところに走っている。

走っている際、木の枝とかに引っ掛かりルカの糸が切れてしまう。
その影響でルカが倒れる。

ルカは、サーカスに入団する前からずっと一緒にいるため、だいぶ古くなっていた。ティアは手持ちのお金がなく持ち合わせに新しい糸がない。ティアは、パニックであたふたしている。
そこにノア、入り。ティアを見つけて駆けつける。

ノア
・・・大丈夫？

ノア、仕事道具の中から代用となるものを探して修理する。

ノア
多分、これで大丈夫だと思う

ティアは身振り手振りで感謝を伝える。

ノア
それ、あげるよ。余り物だし。じゃあ。

ノアはそそくさと去っていく。
舞台上が変化していき、別の日のエイダの繁華街のはずれへと
移り変わる。

場所…エイダのはずれ・スクラップ置き場付近

麗奈が宿舎を抜け出し、街を探索している。

レオ、入り。

レオはこの街に来て少しした後、街のごろつきに狙われ金品を取られてしまい、食事もろくに取れていなかった。

2人は、地図がなく再び道に迷う。

麗奈・レオ

迷った。

2人の声が同時にスクラップ置き場で鳴り響く。

2人は、その声に驚き、顔を見合わせ笑い出す。

麗奈

迷子ですか？

レオ

いや、女性に情けないところ見られちゃったな。

麗奈

私もなんです。まあ、さつき声被っちゃったし、知ってるか。……

レオ

(レオの格好を見て) どうしたの？ それ

麗奈

いや、さらに情けないところを！！

レオ

あ、もしかして

麗奈

ぜーんぶ取られました。スラムっぽいところを通った俺が悪いんだけど

レオ

ね。お姉さんも、気をつけたほうがいいよ。

麗奈

麗奈

レオ

え？

麗奈

お姉さん、じゃなくて麗奈。君、私より年下でしょ。年下は年長者に敬語

レオ

を使うもんなんだよ。

麗奈

それどこの国の文化？

レオ

私の故郷

麗奈

ここは、「エイダ」だよ、お姉さん。郷に入れば郷に従えっていうでしょ。

レオ

その言葉、……もしかしてあなた日本人？

麗奈

俺のどこを見てそう思ったんだよ？

レオ

……顔？

麗奈

……レオ。レオナルド・スミス。

麗奈

あ、日本人じゃないんだ。
どこをどう見たら日本人に見えるんだよ！

途中で、レオのお腹が鳴る。

レオ

・・・重ね重ね情けなくてやになっちゃうな
腹が減るのは人間だからよ。

麗奈、自分が密かに持って来ていた軽食【あんぱん】を
半分レオに差し出す

レオ

・・・くれるの？

麗奈

見せびらかしてるだけに見えるの？

レオ

・・・見える

麗奈

失礼な人！ 初対面の対応じゃない？

レオ

・・・ありがとう。用意がいいね

麗奈

冒険家の基本よ。食糧がなきゃ死んでしまうもの。

レオ

お姉さん、冒険家なんだ？ この街へは一人できたの？

麗奈

いいえ。弟と一緒にきたの。あなたは？

レオ

取材旅行。俺、新聞記者なんだ。各地の隠された真実を明らかにするために旅をしている。

レオは、首から下げているカメラでパシヤリと風景を撮る。

その先には、ノアとララ写り込む。※2人は去っていく。

麗奈

隠された真実、か。

レオ

もし知ってたら教えて欲しいんだけど、お姉さんはこの街のギアシステ
ムに関して何か知ってることある？

麗奈

・・・名前は知ってるけど、そこまで詳しくは知らないわ。力にな
れなくてごめんさい。

レオ

いや、こつちこそ初対面で変な質問してごめん。お姉さんみたいな人は、
知らない方がいいのかもな。

麗奈

・・・そう言われると気になるのだけど。

レオ

厄介なことには首を突っ込まない。その方が幸せに生きられるぜ。

麗奈

最もね。でも、そんな人生楽しいって思えないんじゃないかな。

レオ

え？

麗奈 人生は、厄介ごとの繰り返し。そうでしょ？ お願い、これも何かのお導きかもしれないし。聞かせてよ。

レオ まずギアシステムについてだけど、この街は見て分かる通り蒸気と歯車が発達した街だ。こんな街は他には存在しないし、ギアシステムの技術は門外不出とされている。まあ、イギリスの数学者チャールズバベッジが作り上げた機械式汎用コンピュータ「解析機関」を用いているっていうのが一般的な見解だけど、俺はそうは思わない。どうして？

レオ おかしいんだよ。解析機関が使われているわけがないんだ。バベッジは晩年、さまざまな理由から資金援助を得ることができず、1878に研究は中止になったはずなんだ。ましてや、ほとんどの文献には構想段階で終わってしまったと書かれている。そして、彼が亡くなったのは、1871年10月18日。これがどういうことだか、分かる？

麗奈 わからない
レオ 何でだよ！

麗奈 私、
レオ さては、お姉さん頭弱いだろうさいなあ、何なのそれSF？

レオ そうなんだよ！ 完全なる歴史改変、この街は謎しかない！ 公には1878年に解析機関の開発は中止になっているのに、1870年時点で、解析機関は完成していたことになるんだ！

麗奈 ……何だか楽しそう
レオ ワクワクしない？

麗奈 よくわからない。でも、どうしてバベッジは完成していたことを隠したんだろう。

レオ ほうら、気になってきた
麗奈 なってない！

レオ 1871年のバベッジ死去前に解析機関を完成させることは資金面から見ても、その時代の技術面から見ても、どう考えても不可能だ。なら、どうやって完成させたのか。
レオ タイムマシンとか使ったんじゃないの？ そうでもなきや魔法とか。俺もそれは考えた。

レオ、御伽話『忘却の魔女』を取り出す。

麗奈 御伽話『忘却の魔女』……

レオ 俺は、この本に謎の全てが詰まってると思ってる。だから、それを確かめに来たんだ!!

麗奈

麗奈 もし、その御伽話がフィクションではなく現実の話だとしたら . . . ?
レオ え . . . ?

麗奈 私は . . . その本に出てくる忘却の魔女に会いに来たの。

レオ . . .

麗奈 やっぱり、馬鹿げてるって思う? そうだよ、こんなの

レオ 超いいじゃん!!! もし、会えたら是非教えてほしい!!! 忘却の魔

女本人に取材できたら俺、

麗奈は突然発作を起こし、咳き込み倒れる。

レオは、すぐさま駆け寄り声を掛ける。

レオ おい!

麗奈は、カバンから飲み薬を飲み、少しすると落ち着きを取り戻す。

麗奈ごめん . . . 大丈夫 . . . いつものことだから . . .
レオ いつものことって、

広場の鐘の音が鳴り響く。

SE . . 鐘の音

街は動き出し、見覚えのある通りへと移り変わる。

レオ 街が . . .

麗奈 よかった . . . これなら帰れそう . . .

レオ 送って行こうか?

麗奈 大丈夫 . . . ありがとう。あなたはどうするの?

レオ 俺はもう少しこの辺を探索しようと思う。

レオと麗奈は別々の方面へとはけていき、

貨屋と同じエリアに明かりが灯る。
場所…エイダ（過去）（1878年）（お伽話の年）
魔女の家。

舞台上にはオリビア。（ローブなし）

SE ドアベルの音

ララ
ただいま戻りました

オリビア
おかえり、ララ

ララ
今日もたくさんの人に喜んでもらえました！ 自由に動けるのが夢見たいです。ありがとう、オリビア！

オリビア
ララの踊りには、みんなを笑顔にする力があると思うの。笑顔が一番。明日もいろんなところへ行ってくるといいよ

ララ
オリビア
はい！ あの、オリビア
なに？

今度一緒に、街へ行きませんか？ 一緒に行ってみたいお店があるので

私と？

はい！ 一緒に！

オリビア
・・・分かった。いつか、気が向いたらね。

次第にララは去っていく。

舞台の時間が加速していき、現代へ。（1933年）

人混みに揉まれ、去っていくと舞台上にはララとノアだけが残る。

ノア
こんなところにいたのか。

ララ
ノア。どうしたんですか？

ノア
いや、・・・どうもしないけど、

2人の間に少しの間が生まれる。

ララ

今日、ララはたくさんの人にアイとはなんなのかを聞きました。アイは、
(胸に手を当てる)ここにあるのだそうです。でも、ララには、よく・・・
わかりません。どうしてでしょうか。ララが、からくり人形だから・・・？
みんながなんて答えたのかは知らないけど・・・わからない人のが多いと
思うよ。

ララ

そうなんですか？

ノア

形のないものなんて、その人の思いが型どるからね。

ララ

ノアもわからないのですか？

ノア

そうだね。でも多分、昔は知っていたはずなんだ。ここが暖くなるよう
なそんな感覚。

ララ

あつたかく？

ノア

もうあまり思い出せないんだけどね。

そこに、荷物を抱えたクラウンのメイクを外したティアと
ルカが歩いてくる。

ノアに気がつき、ティアは声をかける。

ティア

あ！！！！ おにーにーにーきーん！！

ノア

・・・君は、

ティア

また会えて嬉しいよー！ この前はどうもありがとうー！ 「ありがとう、

ララ

オニーサン！」

ノア

ノア、この人たちは？

ティア

えっと、・・・知らない

ティア

なんで！ この前の、雨の日に、助けてくれたでしょう?? 「そうだよ、

ララ

あの時助けてくれてなかったら僕今頃スクラップ置き場でスクラップう」

ララ

あの！ どうして一人で喋ってるんですか？

ノア

ララ！

ティアとルカ、顔を見合わせて「クスクスクスクス」と笑う。

ティア

おかしいね。「本当だね、僕らが一人に見えるのかな」

ララ

・・・違うの？

ティア

ねえ君。君、人形でしょ。そうでしょ。

ララ

・・・え？

ティア

「僕と一緒に、人形だあ」

ララ

どうして・・・

ティア

分かるよー！「僕もそうだもの」人形のこととはなーんだって分かるよ「だって僕らは」人形使いだから！

ララ

人形使い？

ティア

そー！君、人形なのに人形使い知らない？

ノア

えっと、ララ。この人たちは、

ティア

人形使いのティア！でもってこっちが「ルカだよ。よろしくね」

ララ

(ノアの方を見る)

ノア

・・・この前の雨の日にね。その、困ってたみたいだったから助けたんだ。

僕、名乗ってたっけ。ノア。よろしく。

ティア

人形に優しい人間、ティア、だいすき！「僕も大好物！」

ララ

そうでしたか。私はララ！踊りが得意なからくり人形です！

ティア

からくり人形、初めて見た！「僕はからくりじゃなくて操り人形だからね」

ララ

操り人形・・・その、人形使って

ティア

人形使い？人形使いはね、人形と苦楽を共にする人たちのことー！

人形には命はない！でも！人形使いは、人形に命を吹き込むことで

きる！ルカは、人形。ティアが動かさなきゃ動かない！でも、ルカは、

ティアのだーいすきな友達なんだ！

ララ

人形に、命はない・・・

ティア

ところでララ、君はからくり人形なのに人間みたいでとってもすごい

ね！「僕もそうになりたいなあ。ところで君、うまそうだな」

ララ

すごい、ですか？

ティア

うん！！

ララ

(ティアたちの大荷物に気がつく)ティアたちは、・・・どこかへいく途中ですか？

ティア

ああ・・・うん。そうなの。どこに行くかは、決めてないけど。どこかには行かなきゃいけないくて。ね、ルカ、

ティアの台詞中にサーカス団の声が聞こえてくる。

もうすぐ、公演をするから是非見にきてほしいとの声が聞こえる。

すると、そこにサーカス団の男たちがやってくる。

男

なんだ、ティア。まだこんなところにいたのか。

ティア

すみません、すぐに。

男

お前の居場所なんてもう、このサーカス団にはねえんだからよ。さっさと

ティア

この街から出ていきな。散々迷惑かけやがって
ティアはただ・・・!

男

あ? なんか文句あんの? (ノアたちに) あ、お客さん! この街の方
ですか? もうすぐ公演あるんでよかったら是非見にきてください

ノア

僕は、

男

(ルカを蹴飛ばして) こんなグズのパフォーマンスよりずっといいもの
お見せしますよ!

ティア

ルカ!

男

おいティア。まさか、この方達にこのゴミ動かしてるとこ見せたんじゃない
いだろうな?

ティア

・・・すみません。

男

面汚しも大概にしな。さっさとこの街から出ていけ!!

ティア

すみません・・・「すみません・・・」

男、はげ。

ティアは、強く拳を握りじつと我慢している。

ノア

・・・

ララ

・・・見せてもらえませんか?

ティア

・・・え?

ララ

ティアとルカの・・・パフォーマンス? 見てみたいです。ね! ノアも

見たいですよね?

今の聞いてもそう言ってくれるの?

ララ

お願いします!

ティアの人形芸に胸が躍るララ。

ララも元々は、人を喜ばすために生まれたからくり人形。

次第にその動きにララは同調し、ルカとララが舞う。

途中で音楽が止まり、オルゴール調になる。

ティア

ねえ、ルカ。ティアまたダメだったよ。また、怒られちゃった! ティア
はただ、みんなに笑顔になってほしいだけなのに・・・なーんでもできな
いのかなあ! 「大丈夫! ティアは頑張ってるよ! 僕が一番よく知ってる

から！」よく・・・知ってるから。本当？ ルカずっと、ティアの味方？
本当はね、ルカはもっと自由に動くことできるはずなんだよ。ティアがい
くらやってもうまくできないだけでさ。上手くできないだけで
さ！！・・・ごめん。ごめんねえ。上手くできなくてごめんねえ・・・
ダメダメ！！ そんなこと言っても頑張るしかないもんね！ もっと頑
張ってルカと一緒に世界中の人を喜ばせるんだ！それがティアの夢。ル
カ、約束だよ！

再び、音楽が戻る。※オルゴールではない
音楽が終わると一瞬の間とともに、ノアが拍手をする。

ノア サークラス団じゃなくても、・・・ティアは輝けるよ

ティア ・・・・え？

ノア ティアの人形芸、・・・また見せてよ。

ティア ありがとう！

ララ ララも見たいです！

ティア ありがとう！「また一緒に踊ろうね！」

ララ はい！一緒に踊りましょう！

ティア ねえルカ。ティア、もうちよつとこの街で頑張ってみようかな。もつとた
くさんの人に見てもらってさ、この街を笑顔でいっぱいにしようよ！！
世界中の人を喜ばせるための第一歩。やっぱり、この夢は諦められないか
らさ。ね。ルカ、ティアのわがままに付き合ってくれる？

ルカ もちろんさ！ どんなことがあっても、僕はティアの味方だよ。

ティア、驚いてノアたちを見る。

ティア ・・・・ねえ、今の

ララ どうしました？

ティア 聞こえた？

ノア なんのこと？

ティア 気のせい、かな。・・・ううん。気のせいじゃないよね！ ありが
とう、ルカ！！

ノアとララ、訳がわからず顔を見合わせている。

ティア ・・・・そろそろ行こうかな。

ララ とても楽しい時間をありがとう。

ティア 「今度会う時まで、もっと踊りの練習しておくね」

ノア ……それじゃあ。

ティア うん。じゃあ、またね！ 二人とも！ 会えてよかった！！

ティアとルカ、歩き出す。

ノア ……頑張つて。

ティアはその言葉に一瞬立ち止まるが再び歩き出して去っていく。
ローブの男（大和）入り。ノアの目を盗んでララを静かに襲う。

ノア ……さ。僕たちも帰ろうか。

ララ ……

ノア ……ララ？

ララ、突然倒れ込んでしまう。

ノア ララ！！ どうしたんだ、ララ！ ララ！

大和、後ろからスタンガンのようなものでノアも襲う。

ノア ……ッ！

倒れる、ノア。

大和、ローブのフードを脱ぐ。

大和 ちくしょう！ なんなんだよ、あの子……！

大和、台車か何かにノアを乗せて慌てて去っていく。

場所…エイダの街のはずれにて（夜）

M14が流れ続けている。

舞台上にはララが取り残されている。

そこに、ランプを持ったエイミー、入り。

エイミー

・・・大丈夫？

ララ

・・・（起き上がる）大丈夫、です。ララはからくり人形ですから。

エイミー

人形？

ララ

やっぱりおかしいですか？・・・たまに言われるんです。からくり人形

エイミー

なのにどうして話せるのかって。

ララ

名前、聞いても？

エイミー

私はララ。

音楽がアップする。

ララ

ノアを知りませんか？

エイミー

誰？

ララ

ララと一緒にいた人です・・・。

エイミー

君は一人だったよ。

ララ

え？ そんなはずは・・・

エイミー

ねえ、私と一緒に来てほしいところがあるんだけど

ララ

一緒に？

エイミー

そう。いいから、着いてきて。こっち。

ララ

でも、

エイミー、ララを連れて歩き出す。

舞台上ではティアとルカが大道芸人としてパフォーマンスをしている。街が変動する。

その時、ノアを連れていく大和、ララを連れていくエイミーの移動が交錯していく。

場所…雑貨屋

SE…ドアベルの音

そこには女店員（オリビア）がいる。（ローブあり）

エイミー、入り。

女店員

すみません。もう、お店おしまい時間なんです。

エイミー

こんばんは。

女店員

……明日にしてもらえませんか。

エイミー

ちよつと聞きたいことがあるんだけど。

女店員

あの、

エイミー

魔法の書って知ってる？

女店員

……知りません。帰ってください。

エイミー

あるんでしょう？ここに。

女店員

……なんのことですか。あの、もう締めるんで、

エイミー

どうして知らないふりをするの。

女店員

……あなた、魔法の書がなんなのか知ってて言ってるんですか。

エイミー

知ってるよ。魔法の血を持つものだけが扱える魔法の教典。

女店員

あれは危険です。

エイミー

その本がここにあるってことは、あんたが魔法ってことでいいんだよね。

女店員

……だとしたら？

エイミー

処刑する。（銃を構える）イエスかはいで答える。お前は魔法か。

女店員

……魔法以外、あれは使えないんです。あなたが魔法の書で何をするつ

もりなのかは知りませんが、魔法ではない人間の手に渡ったところで何
もできない！ 銃を下ろしてください。あなたは私を殺せないはずですよ。

エイミー

（洪々銃を下ろす）……魔法の書はどこだ。

女店員

言えません。

エイミー

……これでも？

ララ、入り。

女店員
………ララ、
ララ
……ララのこと、知っているんですか？
女店員
これは一体、

エイミー銃口をララに向ける。

ララ
お姉さん……？

女店員
やめて！

エイミー
効果は抜群だな。あんたにとってコイツは、魔女の書グリモアよりも大切なものな
んだらう？ さ。早く。

女店員

エイミー
……
私は魔女以外、殺したくはない。

女店員、本を取り出しエイミーに渡す。

女店員

エイミー
………ほら、

(渡しながら) なんで………なんでそこまで魔女を嫌うの。

ララを解放して、女店員の方に押し出す。

女店員

ララ！！

ララを支えよう女店員は前が出る。

その瞬間、銃声音が鳴り響く。

SE 銃声音

倒れ込む女店員。

エイミーは、彼女に跨り何度も何度も銃を撃つ。

エイミー

なんでとか知らねえよ。わかるわけねえだろ。(SE銃声音) なあ。なあ
なあなあ！！(SE銃声音) 生まれた時から！(SE銃声音) あんたら
魔女は！(SE銃声音) この世界に害をなすもんだって教わってきたん
だ！………嫌いとか好きとか、悪い魔女もいればいい魔女もいるとか、考
えたことねえよ！ 魔女は全員死ぬ。それしか私にはわかんねえし、私に
はそれしかねえんだ！(SE銃声音)

エイミー、息切れしている。

ララ

あの・・・

エイミー

・・・ああ。用は終わったから。帰っていいよ。

ララ

この人は・・・どうして動かないんですか

エイミー

は？ 死んだからに決まってるんだろ。

ララ

死んだ？ 死んだって、なんですか

エイミー

訳わかんないこと聞くなよ。

エイミー、はげ

ララ

この人は・・・ララのことを、名前ですら呼びました。ララは、この人と・・・会ったことがありません。(動かないオリビアに向かって) こんばんは。あなたはララを知っていますか？ 教えてください。

ララ

どうして・・・何も言ってくれないのですか。死んでしまったから？

ララ

ララにはわかりません。この世界はララにはわからないことばかりです。ララは・・・からくり人形なので死にません。死ぬって悲しいことなのですか。悲しいことはよくないことです！ 笑顔が一番。そうだ、踊りを踊りましょう。ララは踊りが得意です。歌を歌ってもらえますか？・・・ララには昔がありませんが、なんとなく覚えていることがあるんです。ララの踊りはみんなを笑顔にする力があると言ってくれた人がいました・・・ララは・・・その人が大好きでした。・・・あの、・・・

ララ

ララは、“悲しい”を知っている気がします・・・

ララ、しばらく黙っているがやがて笑い出す。

ララ

“悲しい”は人間の生み出す感情・・・そうだ・・・悲しいことはよくないことです・・・ララが、幸せな世界を作ります・・・待っててください。ララには、みんなを笑顔にする力があるんです。幸せな世界を作ってくださいから・・・

ララを中心に照明が集まり、暗転。

場所…エイダの地下施設
歯車の音が部屋中に鳴り響いている。

監禁されているノアと、監禁した本人である大和。

大和 聞いてない聞いてない聞いてない！ なに？ なんで女の子がいたん

だ！ 僕はただ、君を眠らせてここに監禁しろって言われてただけだ！

・・・任務が達成できてよかったじゃないか

大和 誤算だ！ 僕は君だけを眠らせるはずだった！ だから飛び込んだの

に！ あの女の子はなんなんだ！ あの子まで眠らせちゃったじゃないか！！！！

ノア あの、

なに？！

大和 ここから出してもらいたいんだけど。

大和 できる訳ないだろう！！！ 冗談はよしてくれよ、ジョニー！

ノア ノアだけど・・・

大和 あーあーあーあー！ しかも監禁でこれ完全に悪いことなんじゃない

か！？ 僕、大丈夫かな、

ノア あの、

なに？！

大和 僕、ララのところへ行きたいんだ。

大和 できる訳ないだろう！ あー、そうか、あの子ララって言うのか。いい名前

だな！ ……ってそうじゃない。

ノア 君は・・・悪い人なのか？

そう見えるのか？

大和 見えないから聞いているんだ。

大和 君、やけに落ち着いてるんだな。

ノア 顔に出ないだけだ。

大和 君が君みたいな人で助かったよ

ノア どう言うこと？

大和 泣いて喚かれてもしたら僕の心は持ちっこない！

ノア 君・・・やっぱ悪い人じゃないんじやないのか。どうして・・・

こんなことを？

大和 ……聞いてくれるのかい？ ジョニー。

ノア だから、ノアだって。僕はノア。

大和 そうか。君はノアだったのか。僕は大和。

ノア よろしく、大和

大和 君は、忘却の魔女を知ってる？

ノア え？ ……うん

大和 知ってるの？！

ノア あの物語なら、誰だって知ってるはずだ

大和 ……なんだ……そっちか……

ノア そっち？

大和 ノア。僕らはね、忘却の魔女“本人”を探しているんだよ。彼女の魔法を借りて、姉さんの病気を治したいんだ。

ノア お姉さん

大和 そう。僕のたった一人の家族なんだ。…君、まだ僕の話聞いてくれるの？

ノア ここから出してくれるならね。

大和 それは無理な話だよ……だって、ここに君を監禁しとけて言われてるんだから。

ノア 誰に？

大和 言える訳ないだろジョニー……

ノア だよ

大和 僕だって本当はこんなことしたくないんだ。でも、大事な人のためならなんだってしたいと思うのが人間ってものだろう？ 姉さんのためなんだ。許してよ。

ノア ……

大和 ……だめだ。耐えられない。こんな暗い気持ちになるなんて考えなかったな。ちょっと僕、外に出るね。

大和、はげ。

ノア あ、ちょっと……！

部屋には歯車音が響いている。

そして、誰かの呻く声も聞こえてくる。

手と口を縛られているレオが部屋の奥で転がっている。

ノア ……!! 大丈夫ですか! (レオを解放してあげる)
レオ 助かった!! ありがとう!

ノア いえ、

レオ 本当にありがとう! いや、心細くてちよつと泣いちゃってたよ! 助けに来てくれたんだろ?

ノア 違います・・・

レオ は?

ノア すみません。僕、別にあなただけに助けに来た訳じゃ、

レオ ……そうなの?

ノア ……はい。僕もここに捕まっちゃって。

レオ ……そうなの?

ノア (頷く)

レオ なんだよ、使えねえな〜!

ノア 使えない?!

レオ で、なんで捕まったの

ノア わかんないんです。あなたは?

レオ 俺、新聞記者なんだけども、この街の、ほら、君も知ってるだろ? 忘却

の魔女について調べていたら、変な奴らに襲われて。

ノア あなたもですか。

レオ 君もなのか?!?!!

ノア あ、いや、さつき僕、

レオ ってことはだよ?! やっぱり、忘却の魔女は実在するんだ!!! だ

ってそうだよな? 俺や君が襲われたってことは、その可能性があるっ

てことだ。これはつまり、真実に近づきすぎた罰なんだよ!!!

ノア はあ・・・

レオ (ノアの顔をじっと見つめる) 君……………俺とどこかで会ったことある?

ノア え?

レオ 俺、君の顔、どこかで……………あ!

レオ、胸ポケットから一枚の写真を取り出す。

レオ そうだ、これだ! ほら、この写真。これ、君だろ。

ノア 本当だ・・・こんなのいつの間に、

レオ あいや、君らを撮った訳じゃなくて、偶然君らが写りこんでただけなんだ

けど、……………ところで、この子。

ノア ララ・・・

レオ ララってどういうの？ 君が襲われた時この子とは一緒にいた？ 彼女は無事？

ノア 一緒にいました。彼女も・・・襲われて・・・多分、別のところにいるんだと

レオ ちよつと待てよ・・・ララ・・・？

ノア ララがどうかしたんですか？

レオ この子、もしかして、人間じゃないんじゃないのか？

ノア どうしてそのことを！

レオ 俺、わかつたかもしれぬ。そういうことか。

ノア え？

レオ 俺らがここにいる共通点、それは“忘却の魔女”だ。君と一緒にいた子が別の場所に連れて行かれたこと、その子が、“ララ”という名前を持つことから見て、一つの推測ができないか。あの物語に出てくるからくり人形。そんな、まさか・・・

レオ 彼女は、御伽噺『忘却の魔女』に出てくるからくり人形、“ララ”本人だ。

ノア ちよつと待ってください、そんな話、

レオ 俺も半信半疑だったさ！ でも、これで確証に変わった！ この街の謎

も、^{グリモア}魔女の書が存在するなら話は別だ！

ノア ^{グリモア}魔女の書って、御伽噺に出てくる・・・？

レオ そう。魔女の血を持つものだけが使うことのできる教典。あの御伽噺は、本当にあった出来事で、登場人物たちは今もなお、この街に生き続けているんだ！！！！

ノア とてもじゃないけど、・・・信じられない。

レオ 俺には理解できないよ！！ なぜ、彼女と一緒にいながらその事実が気が付かなかったんだ？

ノア だってあれは御伽噺で！ 確かに、実際にあった昔話だとは聞いていたけど、・・・

レオ ちくしょう！ こんなところでじつとしてられない！ 早くこの街の真実を世間に公表しないと！！！！

レオ、部屋から出ようと試みるが、扉は開かない。

ノア ……世間に公表するの？

レオ 当たり前だろ！それが俺の仕事だ！
レオ 誰も信じるわけない！

レオ それでも俺はやる。俺は、新聞記者だ。隠された真実を追い求め、それをみんなに伝えるのが俺のやるべきことなんだ。

ノア ……君の言っていることが本当なのだとしたら、…いや、多分本当なんだと思うけど、
レオ なんだよ、

ノア 全てのが腑に落ちるよ。

扉を二人でこじ開ける。

ノア ノア。

レオ え？

レオ 僕の名前。お前とか、君、とかじゃなくて。

レオ ああ、そういえば名前聞いてなかったな。悪い。俺はレオ。よろしくな。

ノア 僕は、君の話信じたわけじゃない。ララを・助けたいだけだ。

舞台が移り変わる。

舞台上では、ティアとルカが芸の練習をしている。

そこに現れるララ。

ティア あれ？ララだ！こんにちは！「こんにちはー！」今日はノアと一緒に

やないの？「ないのー？」

何も答えずにララ、ティアたちに近づく。

ティア なんだなんだー?! 「ララ？」

ティアの前に立つルカ。

ララ ティア、ルカ。あなた方はアイを知っていますか？

ルカ、ティアの目の前に崩れ落ちる。

ティア ……え？

ティア、ルカと同じように倒れる。

舞台左右から雑踏が押し寄せてきて、その人々は次第に倒れ込んでいく
ララ、歌を歌いながらはけていく。

その際、ノアに買ってもらった本を落とす。

そこに、ノアとレオが駆け込んでくる。

場所…スクラップ置き場

レオ ……なんだこれ……

ノアとレオ、倒れている人たちに駆け寄り声をかけて回る。

ノアがある一人に声をかけると、その子はティアだった。

ノア ……ティア？

レオ ……知り合い？

ノア ティア、なんでこんなとこにいるんだよ……ティア。 ティアー！！

レオ (脈を測る) 残念だけど……

ノア こんなの……嘘だ。こんなこと……

レオ ……まるで地獄だな。

そこにオリビア、入り。

女店員 事態は一刻を争うようです。

顔を見合わせるノアとレオ。

女店員

初めまして。(ノアを見て)……私の名前はオリビア。“忘却の魔女”
と言った方がいいですかね。この惨劇は……おそらく、ララがや
ったことです。

……

……ぼ……忘却の……魔女?! え、ほほ本物?!

はい。

……すごい……こんなことが、

ララが……これを……?

そうです。

そんなはずはない! 説明してください。ララがやったってどういうこ
とですか。

オリビア

言葉の通りです。あなたも、あの物語を知っているならわかるでしょう?
でも、ララはこんなこと……!

オリビア

……知つての通り、ララは、ただの人形です。魔法で人間と同じ

ように動けてはいます。自我もあります。でも心は、未完成なんです。彼女はもともと踊りの得意な人形で、人を楽しませるために生まれてきました。だから私はララに魔法をかける時に、彼女の喜びのエネルギーを動力とすることにしたのです。

じゃあ、なんで!!

レオ お前も知ってるはずだ。物語の中盤、エイダでは戦争が起こる。

はい。それまで、喜びの感情としか出会ってこなかったララは、初めて人の憎しみや苦しみ、悲しみを知るのです。人間のように動けても、誰かのために泣くことも叶わない機械の身体。ララは、そうした負の感情を自らのうちに消化できず、やがて暴走してしまいました。

それは、あんたの魔法が未完成だったってことになるんじゃないのか。

・・・

オリビア

ノア

レオ、
でも、

オリビア

・・・確かに、踊りを踊るだけの人形のままでいたら・・・こんなことにはならなかったのかもしれない。

ノア

あの
はい

オリビア

ララは、・・・自分の意志で人を殺しているんですか？

ノア

ララは悲しみを根絶しようとしているだけです。そのやり方が間違っていることを・・・あの子を、止めないと。

オリビア

レオ

じゃあ、止めればいいじゃないか。・・・あんたならできるんだろ？ 御伽噺には、忘却の魔女が止めたって！

オリビア

・・・それは、・・・私にはできなかつた・・・
なんだって?!

レオ

でも、御伽噺には、あなたが止めたって！

ノア

正確には・・・“忘れさせた”だけです。私は、忘却の魔女ですから・・・

オリビア

あの日、私はこの街の全ての人から、記憶を奪いました。そうするしか、なかつたんです。

レオ

じゃあ、今回も・・・!

オリビア

できません。

レオ

なんで!

オリビア

それは・・・私が、この世に存在していないのも同じだから

ノア

それって、どういう・・・

レオ

おい、わかるように説明してくれ。この世に存在していない？ じゃあ、

俺たちが話してるあんたはなんなんだよ!

ノア ……説明してもらえますか。

オリビア 結論から言うと……忘却魔法は、魔女の中では禁断魔法と呼ばれるもので、それ相応の“対価”が必要なのです。あの日私は、“自分の存在”を対価として支払い、魔法を発動させました。

ノア 自分の存在を……？

オリビア はい。なので、今ここに存在している私は、正確に言えば私ではありません。忘却の魔女オリビアの形をした魔法の結晶のようなもの。いわば、

陽炎かげろうとでもいいでしょうか。そうであるがために、人の記憶に残ることができない。

ノア え？

オリビア 実は私、あなたに会ったことがあります。

ノア でも、そんなはずは、

オリビア あなたはそれを覚えてはいない。私を記憶することはできない。それが“代償”なんです。私のことは誰も知ることができない。

レオ じゃあ、あの物語は……一体誰が書いたって言うんだ？

オリビア わかりませんか？ あの物語を書ける人は、この世界に一人しかいません。

ノア ……あなたが書いたんですね。

オリビア ……はい。

ノア ララが自分のことや、あなたのことを覚えていないのは、それが理由だったんですか

オリビア そうです。

レオ (泣いている) そんな話があったたまるかよ……だって、あんまりだろ？ 街の人を守るために自分の存在をかけたのに、そのことを誰も覚えちゃいないなんて……ましてや、守りたかったそいつにまで忘れらちまうなんてよ……!!

オリビア いいんです。わかってたことですから……改めて、あなたがたにお願ひしたいことがあるのですが、聞いていただけますか。

ノア ……はい

オリビア ララを助けて……実は……守り続けていた魔女の書が、奪われてしまいました。おそらく、ララを暴走状態へと変えてしまったのは、私から魔女の書を奪った奴らです。非常に危険な状況なんです。

レオ 魔女の書が奪われただつて?!

オリビア ……はい。

ノア でも、あれは、魔女の血を持った者にしか扱えないって・

オリビア でも、万が一・

レオ 万が一があつたら大変だ。もちろん俺らでできることがあるのなら!

な! ノア!

・…・…

ノア ノア?

・…・…無理だ。

レオ おいおい、何言つてんだよ。ララを助けたいって言つてたじゃないか!

お前まさか・…・怖くなつたとか言うんじゃないだろうな。

・…・悪いか。

お前・…!!

ノア 悪いか。…僕は、ただの時計技師だ。魔女のように特別な力も

ない。その力を持ったオリビアさんでさえ、自分の存在を失くしてるんだ

ぞ?! 僕らに何ができるつて言うんだよ。今の話を聞いて、僕は・…

僕は・…!!

ノア!!!

レオ それに僕はもともと、そんな大そうなことを成し遂げられるような人間

じゃないんだ。

どうしちゃつたんだよ! さっきまであんなに、

レオ レオ、君は怖くないのか・…?

それは、

ノア 僕は・…ヒーローにはなれない・…街の人からも嫌われてる

し・…僕はただのちっぽけな人間なんだ・…さっきは君に大きな

ことを言ったかもしれない、でも、言った側から実は後悔してた! 僕は

そう言う人間なんだよ・…!

オリビア ずっと昔の話です。ララは、街の人をいつも笑顔にしていますが、魔女

である私と一緒にいたためずっとひとりぼっちでした。別に嫌われてい

たからではありません。そんな時、ララは一人の少年と出会いました。彼

は、ひとりぼっちのララと一緒にいてくれる、あたたかな人でした。

ノア なんの話をしているんですか・…

オリビア その少年の名前は、ノア。

・…・…!

レオ ・…・…!

オリビア

少年は、暴走したララを止めようとして命を落としました。これは御伽噺には書かれていないことです。“運命”と言うものは、それは残酷なものです。時に、かけがえのない奇跡を運んでくれるものです。もう一度、お願いします。……ララを助けて。

ノア

でもそれは僕のことじゃない。

レオ

ノア！

ノア

だってそうだろう。オリビアさんの言うずっと昔って何年前のことですか。

オリビア

その少年と僕とは一切関係がない。

ノア

……そう……なんですけど
だから僕の決断はその子とは何にも関係ない。今ララと一緒にいるのは、その少年でも……あなたでもない！ この僕なんです。……
僕がララを助けます。

オリビア

……！ ありがとうございます！

ノア

教えてください。どうすれば、ララを助けられますか。

オリビア

ララの心は、負の感情に囚われてしまっています。彼女を、解放してあげられれば……

レオ

簡単に言うけどよ、それってつまりどうすれば

ノア

わかりました。

レオ

え、あ、いいんだ。その説明で。

オリビア

私は、^{グリモア}魔女の書を取り戻します。

ノア

はい。ララのことは、僕が必ず。

レオ

……あれ。ちょっと待てよ！ 俺も行くからね。僕が必ず、じゃ

ノア

なくて僕“たち”が必ず、だからね？

レオ

でも、君は関係ないじゃないか。

ノア

急に正論かざすのやめてもらえる？ ここまで知っちゃったんだ。俺も

レオ

当事者でいさせてくれよ！ 密着取材させてくれよ！！！！

ノア

……冗談だよ。ありがとう、レオ。でもごめん。君はオリビアさんの方

レオ

に行っただよ。

レオ

え？

オリビア

私は別に……攻撃を受けても死ねない身体です。

ノア

それでもです。あなたは死なないかもしれない。だからと言って、何度も

死なせるのは訳が違う。^{グリモア}魔女の書がないっていうのは戦う術がないって

ことでしょうか？

オリビア

……はい。

ノア
レオ
オリビア

レオ、頼むよ
・・わかったよ
ありがとうございます。

オリビア、紙にこれからやることを、書き出す。

オリビア

私と離れたら、すぐに私の存在は忘れてしまいます。．．．（ノアに渡す）

これを。

ノア

はい。

オリビア

ララのこと．．．．．よろしくお願いします。

ノア

必ず、やり遂げて見せます。

オリビア

はい！

3人はララたちがいる繁華街へと目指す。

ティアとルカの側により、「行ってくるね」と挨拶をするノア。

ノア

あ、オリビアさん。

オリビア

．．．？

ノア

（メモを掲げて）あなたはもう、一人じゃないです。

レオとノアはけ。オリビアもはけ。
広場の死体たちもはけていく。

場所…エイダの時計塔

台下にはエイミーがいる。

台上から、ローブの男（アイザック）入り。

本は？

ローブの男
エイミー
・・・ここに。（本を渡す）

ローブの男
エイミー
よくやった。・・・それで？ 本を所持していた魔女は？

ローブの男
エイミー
・・・それは、えっと・・・あれ？

ローブの男
エイミー
相手は忘却の魔女だからね。いいよ。君のことだから、きちんと処刑した
んだろう。

エイミー
申し訳ございません・・・

ローブの男
エイミー
これに関してはどう頑張ったって記憶することは不可能だ。彼女の居場
所を突き止めるのにも相当苦労したからね。それに、これさえ手に入れば
生きていても死んでいてもどっちでもいい。

エイミー
ローブの男
ん？

エイミー
魔女には・・・いい魔女も、いたりするんでしょうか・・・？

ローブの男
エイミー
らしくない質問だな。忘却の魔女に何か言われた？

エイミー
覚えていません。

ローブの男
エイミー
いないよ。君は僕のいう通りにしていればいい。

エイミー
・・・はい

と、そこに大和入り。

大和
エイミー
（エイミーを見て）あれ？

エイミー
（銃に手をかける）

ローブの男
大和
（エイミーに）大丈夫。この子は僕らの味方だよ。（大和に）どうしたん
だい？大和。

大和
エイミー
あの。本当にあの人を監禁すれば姉さんは安全なんですよね？ 僕、そう
は思えなくて・・・これで忘却の魔女の情報に近づけるんですよね？！

エイミー
・・・忘却の魔女？

大和
エイミー
・・・あなたも探してるんですか。

エイミー
探しているも何も、忘却の魔女は処刑済みだ。

大和
エイミー
……え？（エイミーにしがみつく）今なんて？！

だ、だから処刑済みだと言っている。私が殺したはずだ！ おい、くつつくな殺すぞ！

大和
どう言うことですか、アイザックさん！ あの人を監禁したら、また一步情報に近づけるって、まさか……！

アイザック
（ニッコリ笑いながら）今頃気がついたのか。

大和
騙したんですか？！

アイザック
そう怖い顔をするなよ。大和。

大和
姉さんは……？

アイザック
麗奈には危害は加えない。絶対にだ。

大和
でも！ 姉さんの病気を治すために忘却の魔女を探していたのに……！

アイザック
忘却の魔女は、これから僕のしようとしていることに邪魔だったから殺しただけだ。麗奈の病気は必ず治す。

そこに、オリビアとレオ入り。

オリビア
……邪魔だったから“誰”を殺したんですか。

アイザック
……そうですか。貴女が、忘却の魔女ですね。

エイミー
え？……でも、

大和
忘却の魔女？

オリビア
（エイミーに）そんなに驚かないでください。最も、私を殺した時のことは覚えていないはずですが。

エイミー
お前……なんなんだ……？

オリビア
私は忘却の魔女オリビア。あなたがたがどうして私のことを知ることができたのかは存じ上げませんが、その本、返していただけませんか。

エイミー
（戦闘体制をとる）申し訳ございません。処刑し損なっていたようです。すぐにでも、

アイザック
いいんだ、エイミー。

エイミー
でも……！！

アイザック
欲しいものは手に入った。

オリビア
手に入ったとしても使えなければ意味がないのでは？ その本は、魔女の血を持つ者にしか扱えません。

アイザック
知っていますよ。だから苦労しました。

オリビア
苦労……？

アイザック
魔女という種族は思いのほか狩られ尽くされていまして。見つけ次第殺して血液を頂戴していたのですが、どうも普通の人間である僕が扱うに

は魔法の純血を取り込む必要があるみたいなんです。これがなつかなか見つからなくて。

オリビア

そのために・・・魔法を殺したの・・・？

アイザック

殺さないと、血、もらえないじゃないですか。あ、いや。もらえることにはもらえるか。はは。でも、殺した方が早い。あ、ちなみに！僕は殺していませんよ（エイミーの肩に手を置き）殺しはこの子が。

オリビア

・・・何人殺したんですか・・・

アイザック

何人だい？ エイミー

エイミー

63・・・

オリビア

63人も・・・同胞がいたんですか・・・??

アイザック

ええ。知りませんでした？ まあ、知ったところで、あなたには意味がないか。

レオ

ひどい話だ・・・

オリビア

なんてことを・・・!!!

アイザックにかみかろうとするオリビア。

レオが慌てて止める。

アイザック

今のあなたには何もできない。だって魔法の書は俺が持っているんです。

オリビア

・・・!

アイザック

非力でしょう。非力なんですよ、人間っていうのは。何もできないのが、普通なんです。

大和

そんなことない！

アイザック

なんだ君、まだいたのか。

大和

忘却の魔法さん！僕は、

セリフの途中でアイザック、大和を撃ち殺す。

倒れる大和。

レオ

おい！！！！ お前、なんてことを！

アイザック

誰だお前

レオも撃ち殺す。

オリビア

・・・

アイザック

で、どうします？

オリビア

あなた・・・何も感じないの・・・？

アイザック

何が？

オリビア

どうして今のふたりを殺したの

アイザック

あなたも今殺しておきます？

アイザック、オリビアを撃つ。

オリビア、死なない。

オリビア

私のことは殺せません。

アイザック

今のでよくわかりました。すみません。ちょっと試してみたかっただけで

す。おいで、エイミー。

エイミー

はい。

アイザック

あなたに紹介したい子がいます。この子はエイミー。純血の魔女です。

エイミー

・・・え？

アイザック

魔女を異端とする教会で育った戦争孤児で、僕が19、この子が14の時

エイミー

に引き取りました。何かと都合が良かった。

アイザック

待ってください、アイザックさま！！ 一体どういう、

オリビア

そうだね。これは君にも初めて話すことだ。

アイザック

私を殺そうとした子が、魔女・・・？

アイザック

そのことを知ったのはつい最近です。きつかけは些細なことでした。この

子には魔女の血を集めるために、魔女の処刑と血の採取を任せていまし

た。知っていますか？ 混血の魔女と純血の魔女の見分け方。

オリビア

・・・

アイザック

知らないんですか？！ 勿体無い！ 味ですよ。味。純血の魔女の血は甘

いんです。ある時、この子が傷だらけで帰って来た日がありましたね。手

当をやってやったんですが、その時に血がついてしまったんです。

アイザック、そう話しながらエイミーを抱き寄せる。

アイザック

何も考えずにその血を舐めたのですが、驚きました。この子の血は、世界

中のどの果実よりも熟れた甘い味がした。

エイミー

そんな・・・

アイザック

こんな宝物を引き当てるとは思いもしなかった。この子は、いや、この子

が！！純血の魔女だったんです！僕がずっと探していたものはすぐそば

にあった！！！！！！

エイミー 私が・・・魔女？

アイザック そうだよ、エイミー。君は魔女だ。君自身が何よりも憎んでいた魔女なんだよ。

エイミー そんなの・・・どうして今まで教えてくださらなかったのですか！
アイザック そんなの簡単だよ・・・その方が面白いからだ。
オリビア 同族を殺させていたなんて・・・！！！！

アイザック エイミー。君は、いかに魔女が悪き存在で、醜く、害悪であるかを僕に話してくれたね。

エイミー そんな・・・そんなこと・・・
アイザック 魔女はこの世界に悪をもたらす異端だと。

エイミー そんな・・・
アイザック 魔女は全員死ね！！ そう言っただけじゃないか。
エイミー 私は・・・魔女なんかじゃない！！！！

アイザック 残念だけど！！！！（ナイフを取り出す）君は魔女だ。
エイミー アイザックさまは・・・身寄りのない私を引き取ってくださいました・・・

教会はひどいところでした。食べるものも、着る物も満足に与えられない・・・地獄のようなところ・・・。それもこれも、魔女のせいだ。そう教えられ、今まで生きて来ました。アイザックさまは、そんな私を引き取って、あたたかい食事と、着るものと、帰るべき家・・・そして、使命を与えてくださいました。

アイザック 俺は君を、利用していただけだ。君を引き取った理由は、魔女を殺すことに対し何にも疑問を抱かない、馬鹿な子供だったからだだよ。お前は、天涯孤独じゃなかった。魔女という同種の仲間がいた。その仲間を自らの手で殺してきた。これ以上に面白いことがあるか？ エイミー。ありがとう。
俺は君に感謝しているんだよ。君は純血の魔女な上にこんなに面白いものを俺に見せてくれた。さ。

アイザック、エイミーにナイフを渡す。

アイザック 魔女はどういう存在なんだっけ？

エイミー （受け取る）
オリビア やめなさい！！！！

エイミー 魔女は・・・世界に害悪をもたらす・・・死ぬべき存在です・・・！！

エイミー、自身の首を切り裂いて自殺をする。

アイザック、転がったナイフについた血を舐める。

アイザック

………(微笑む)。

それを見たオリビア、ツカツカとアイザックの方に歩いて行き頬にビンタする。

アイザック

何をしたって手遅れですよ。

オリビア

どうしてこんなことができるの……!!!!!!

アイザック

全ては、愛のためです。

舞台後方が暗くなり、前方エリアのみあかりが灯る。

舞台上には、ララが歌いながらやってくる。

そこに駆け込んくるノア。

ノア

ララ!!!!!!

ララ

……私はララ。アイはどこにありますか。

ノア

ララ、探したんだよ。一緒に帰ろう。

ララ

……ノア?

ノア

そうだよ。僕だ。もうこんなことはやめよう。

ララ

ノア。探したんですよ。一緒に行きましょう。

ノア

……え?

ララ

この世界は、もうダメなんです。

ノア

なに言ってるんだよ……ララ、

ララ

人間は、“悲しい”を生み出します。だから、この世の全ての人間を排除

して、ララは新しい世界を創ろうと思うんです。誰も、悲しむことはない、幸せな世界。

ノア

誰も悲しまない世界なんかじゃない。だってそれじゃあ、誰もいないじゃ

ララ

ないか……

ララ

ノアがいます。ノアは一緒に来てくれますよね?

ノア

………(首を横に振る) 僕は……嫌だ……

ララ

どうしてですか? この世界に、ララの探しているアイはありません。

ノア

そんなの……間違っている。

ララ

ノアならわかってくれると思っていたのに……。ノアも、そちら側の人

ノア

間ですか

ララ

そちら側?

ララ

悲しいを生み出す人間の事です。

ララ、ノアにゆっくりと迫る。

ノア
ララ

そちら側とかこちら側とかない!!!
だってララは今、とても“悲しいです”。

刺される瞬間、前エリアの明かりは消え、後方エリアに明かりがともる。

アイザック
オリビア
アイザック

何をしたって手遅れですよ。
どうしてこんなことができるの……!!!!!!
全ては、愛のためです。

その瞬間、銃声が鳴り響く。
アイザック、膝をつく。

アイザック

……!! なんて、君が……!!!!!!

麗奈

へえ、アイザック。あなた、魔女グリモアの書を愛のために使おうとしているの？

アイザック

……麗奈!!!!!!

オリビア

あなたは？

麗奈

初めまして、忘却の魔女さま。私は麗奈。

アイザック

麗奈、どうして君が……!

アイザック、麗奈に近づこうとするが体が動かない。

麗奈

あー。無理だよ。撃ったのは麻酔銃だから。アイザックはそこで見ててよ。
変わらないね、アイザック。あなたは昔から、詰めが甘い。

麗奈、倒れている大和に気づく。

麗奈

あれ？ 大和？

アイザック

……

麗奈

……殺したの？

アイザック

……そうだ。

麗奈

そう。

麗奈、倒れている大和の元により話しかける麗奈。

麗奈

ねえ、アイザック！ 人間って死んでからも聴覚は残ってるらしいよ!!! 話しかけてみようか……大和、私だよ。麗奈。ねえ。どうして死んじゃったの？ アイザックのこと怒らせた？ 大和はいつの間

が悪いからなあ。あのね。全部ね。私が仕組んだことなんだよ。あなたが私のために、忘却の魔女を探しに行こうって言い出したことも、(アイザックの方を見て)アイザックが私たちのことを利用しようとしていたことも。全部、シナリオ通り。

麗奈、アイザックの手から魔女の書を奪う。アイザックは痺れて抵抗できない。

麗奈　ねえ、アイザック。愛のためって言ってたけど、あなたはどう魔女の書を使おうとしていたの？

アイザック　僕は………麗奈、まだ君が好きなんだよ………

麗奈　つまらない話さ。僕は愛を知らない人間なんだ。実の両親に売られてね。それで、

麗奈　ねえ、その話長い？
それで………君とバディを組んで僕は………愛を………知ったんだ。でも、君は、僕を拒んだ。だから君を永遠に僕のものにしたかった………それだけだ。

麗奈　私はね、その逆だよアイザック。私があなたの愛を受け入れることはあり得ない。私は魔女の書で、“愛のない世界”を作りたいの。

オリビア　そんなことはさせない！
私は身体が弱くて、自分で純血の魔女を探すことができなかったから………だから、“準備”する必要がある。アイザック、どうしてあなたは私とのバディを解消した後、エイダに行こうと思ったの？

アイザック　それは………
旅の途中で忘却の魔女の手がかりを見つけたからじゃない？
どうしてそれを………

麗奈　エイダに着いた後、どうして教会に行こうと思ったのかしら？
………
大和が夜中抜け出していたこと、私が知らないとも思った？ 全部知

ってたよ。だってあなたがそう動いてくれるように私が誘導したんだもの。アイザックが、(エイミーを見て)この子を見つけた確証はなかったけど、ちゃんと用意してくれたんだね。ありがとう。

麗奈、そう言ってエイミーの血を体に取り込む。

麗奈

全てはお導きよ。私のね。……ねえ、忘却の魔女さま！ 私の話を聞いてくれる？ きっと、私の話を聞いたら賛同してこの本を快く使わせてくれると思うの

オリビア

……そうでしょうか

麗奈

絶対そう！！

オリビア

あなたは、もうその本をすぐにでも使えるはずですよ。

麗奈

そうだけど、……それじゃあ私の理想の世界は作れないから。私ね、“愛のない平等な世界”を作りたいの。

アイザック

平等……？

麗奈

そ。私とアイザックは冒険家で、今まで世界中を冒険して回ってきた。たくさんの人に出逢い、色んなことを見てきたわ！ まだ見ぬ知らない世界っていうのはどうしてこうもワクワクするんだろう。そう思った。でもね、そこで知ったの。世界の光と闇。知ってる？ 陽の当たるところには影が必ず存在する。幸せは、誰かの不幸の上に成り立っているの。そんなの悲しいじゃない。私は、（胸を抑える）神様に愛してもらえなかったから……それが、痛いほどわかる。なら、愛なんて最初からない方がいいのよ。

オリビア

そんなことしたら……！！！！

麗奈

皆等しく平等に、悪いことじゃないでしょう?? これでみんな、幸せになれるから。

本を開くとその本が光はじめる。

麗奈

お願い。私の願いを叶えて。

そういうと時計塔の鐘が鳴り響き、舞台上はシルエットと化する。

【モノクロの世界】

人々は、隊列を成し機械的に物事を進める。

言葉は、端的に発しアイが存在しないが故に、道具のように死人は扱ふ。

そんな機械人の雑踏に紛れているノアは、

ふと懐に入れていた写真を取り出す。

その写真は、レオが偶然撮ったノアとララが写っている写真。

ノアは、なぜかその写真を見ると涙が溢れてくる。

ノア

……僕は、……

ノアだけモノクロの世界から色のある世界へと変わっていく。

雑踏が次第にその色のついた世界を避けていき、そのさきにララがこちらを向いている。

ノア

ララ

ララ。人を傷つけるのはもうやめよう。こんな誰も幸せにならないでも、

ノア

ララ、

ララは、みんなに幸せになってほしい。笑顔になってほしいのです。ただ、それだけなのに……

ノア

うん。あのね。人は喜びより悲しみや憎しみに共感する生き物なんだ。負の感情は人々に伝播していく。決して消えることのない業だと言ってもいい。

ララ

でもそれじゃあ、誰も幸せになりません……

ノア

そんなことないよ。ララには、誰かを笑顔にする力がある。

ノア、笑ってみせる。

ノア

僕も、君に笑顔をもたらしたんだよ。誰とも関わることのなかった僕は、正しい方はおろか、声の出し方さえ忘れかけていたんだ。思い出させてくれたのは、ララ、君だ。

ララ

ノア……

ノア

誰かが悲しい思いをすることが耐えられないからって、誰かを傷つけたらいけない。その人を愛する誰かが、また悲しむことになる。君は誰も悲しませたくはないんだろ？ なら、こんなことしてちゃだめだ。

ララ

ごめんなさい……

ノア

君は、その悲しみに寄り添うことができる。その憎しみを癒すことができる。誰かを笑顔にする力があるっていうことは、そういうことだ。悲しみや憎しみに負けないぐらいみんなが笑顔になることをしよう。どれだけ時間がかかるかわからないけど……僕も手伝うから。

ノアとララの世界の色が広がり始める。

すると、1人の女性が声をかけてくる。

オリビア

あなたを信じてよかった・・・

ノア

あなたは・・・？

ララ

・・・オリビア・・・？

オリビア

ララ、愛は見つかりましたか？あなたがコチラへ帰ってきてくれて助かりました。

ノア

こちら・・・？ どういうことですか？！

オリビア

ごめんなさい・・・私はまた・・・止められなかった・・・。

この世界は、麗奈と名乗る少女によって書き換えられました。ここは、愛のない“平等”な世界。

ノア

愛のないだって？！ それがなんで、平等な世界になるんですか！

オリビア

あなたも先ほどまでは、空っぽな人形に過ぎませんでした。私は、この世界に存在していないと同じですから影響は受けませんが、・・・

(ノアが握りしめているものに気がつく) それは？

ノア

これ？ ああ、これは友人が撮ってくれた写真です。

オリビア

なるほど。写真は写った人の魂を抜くという迷信があります。もしかしたら、ノア、あなたのその優しい魂のかけらが写真の中に保存されていたのかもしれないですね

ノア

どうやったら元の世界に戻すことができますか？

オリビア

この世界を作った人に会い、魔女の書を取り戻す必要があります。

手伝ってくださいますか？

ノア・ララ

はい！

場所…エイダの時計塔最上階

舞台上には、魔女の書を抱えている麗奈がいる。

麗奈
……大丈夫……私は間違っていない……これでみんなが幸せになつたはず……大丈夫……

麗奈、咳き込み膝をつく。

麗奈
せつかく夢を叶えたのに……！！！！

そこに、オリビア・ノア・ララ、入り。

オリビア
その本を返してください。

麗奈
あなた、誰？

オリビア
先ほどもお会いしました。

麗奈
ああ……つてことはあなたが忘却の魔女さまね。素敵なお本をありがとう。

おかげで夢を叶えることができた。

夢……

ララ
あなたは……そう。あなたはララね。つてことは、あなたがノア。

麗奈
僕を知っているんですか。

ノア
もちろん。私、大概のことは知っているの。

麗奈
これがあなたの夢なんですか。この、「愛のない世界」が

ノア
正確には愛のない“平等”な世界よ。素敵でしょう。それでもう、泣く子はいなくなる。

麗奈咳き込み膝をつく。ノアは反射的に寄り添ってしまふ。

話し続ける麗奈。

麗奈
(咳き込みながら)私みたいに……。「なんで私だけが」つて、泣く子はもういない……。私は、みんな等しく平等に幸せになってもらいたいの。誰かが一心に不幸を背負うようなことがない世界が作りたいの。そのためなら自分の命も惜しくない。

咳き込む麗奈。

ノア 大丈夫ですか

麗奈 心配してくれるの？

ノア 当たり前です。目の前に苦しんでいる人がいたら手を差し伸べる。そんなの当たり前じゃないですか

麗奈 君は・・・優しいんだね

ノア あなたは・・・愛に見放されたわけじゃないと思います。

麗奈 じゃあなに?! どうして私だけこんな目に遭わなきゃいけないわけ？
(咳き込みながら)私多分もうすぐ死ぬ。病気の。生まれた時からずっとそう。一時期は落ち着いてたから、冒険家になることができたけど、それもすぐにできなくなった。まだ、やりたいこといっぱいある！ 何にも出来てない!! なのになんで、死ななきゃなんなの?! 私は神様に愛されなかった! 世界に愛されなかった! そうだとしても、助けてあげられませんか・・・?

ノア ララ?

ノア ・・・・どうにか助けてあげることができませんか?! だって、死んじゃうんですよね? そんなの悲しいです! ・・・・オリビア、

オリビア

ララ ノア・・・!

ノア ・・・・できない。

麗奈 ・・・・ね?

ララ 大丈夫です。ノアなら助けてくれます。ララはいつもノアに助けてもらっているんですよ! だから今回も、

ノア 無理だ!! ・・・・ごめん、ララ。それはできないんだ。人はいずれ死ぬ。それは絶対に変えられない。変えちゃいけない。いいかい? ララ。

君は、あの広場でたくさんの人を殺している。たとえそれが、暴走状態であつたとしても、その事実を忘れちゃいけない。

・・・・はい

ララ (麗奈に) 僕は今から、あなたにひどいことを言います。・・・僕

ノア は、あなたを助けることはできない。そして、あなたが創り上げたこの“愛のない平等な世界”というものにも賛同できない。僕は今まで、愛のないところで生きてきました。両親の愛も知らず、人との関わり方もわからず、誰かを愛したこともありませんでした。

麗奈
ノア

ならあなたも、理解できるはずじゃない。
いいえ。愛というものはこの世界には必要なものなんです。確かに、愛に見放されたと感じる人たちは、僕も含め、この世界にはたくさんいるんだと思います。「なぜ自分だけがこんな目に」そうした人をなくしたいというあなたの志自体は間違っているとは思いません。

麗奈

じゃあ、何が悪いのよ……！！！！！！ もっとわかるように説明してよ！
間違っていないなら、

ノア

間違っていないけど、間違っているんです。あなたは一番大切なことを忘れてる！！！！！！ それは！！！！ 自分自身を愛することだ！！！！！！

麗奈

ノア

自分自身の正義を押し付けちゃいけない。あなたは、あなたの人生を歩むべきだ。僕は、ララと出会って変わったんです。今まで、愛とは無縁でそれでもいいと思っていたけれど、喜び、時に傷つき、悲しみ、誰かと笑い合う。そういったことの全てが人生を色鮮やかにさせていくんです。

麗奈

ノア

でも……私もうすぐ死ぬのよ……
ならなおさら、こんなことにあなたの人生の大切な時間を使うべきじゃない。

オリビア

こんなものに頼らなくとも、人は運命を切り開く力を持っています。あなたが愛する人々をもっと信じてください。

麗奈、ヘナヘナと座り込み子供のように泣き出す。

ララ、そばに寄り添ってあげる。

麗奈

だって……私一人だもん……どうして死んじゃったのよお……大和お……！！ 私より先に死ぬなんて許さないんだからあ……！！！！

オリビア、麗奈の側に落ちている本を取り上げる。

オリビア

これはもうあなたには必要ありませんね。

ノア

この世界を、元に戻すことができるんですか。

オリビア

(横に首を振る)

ノア

そんな！

オリビア

魔法というのは、命令式によってこの世の理ことわりを書き換えるもの。基本的には一步通行なんです。完全な元の世界というものはもう二度と、帰ってこない。だから魔法は、魔法使いにしか使えないんです。それだけ危険

ノア
で・・・残酷だから。

オリビア
じゃあ、どうすれば・・・
そのための忘却魔法です。なかったことにするための、唯一の魔法。
・・・なかったこと・・・？

オリビア
1度目の使用で私は、誰の記憶にも残れない存在となりました。おそらく
2度目の使用で私が生きていたという事実すらなくなる。そうしたら、解
析機関が完成するのは、100年以上先か・・・もしくは完成は無くなる
かもしれない。そうなれば、この姿なき街エイダは消失する・・・
そんな・・・

オリビア
この世界には、あなたが言った通り、愛が必要なんです。いいですか、ノ
ア。何かを得るためには、それ相応の何かが必要なんです。

ノア
どうして、あなたばかり・・・
オリビア
本来、完成するはずのなかった解析機関を完成させ、世界を変えてしまっ
た私が背負うべき罪、とでも言いましょうか。同じです。元に戻すだけだ
す。

麗奈
ちよつと待って？ あなたの存在がなくなるってことは、ララも・・・？
え？

オリビア
ララが、こうして動いていられるのは、・・・
ノア
“人間のよう動ける魔法”・・・

オリビア
(頷く) 御伽噺に記されたあの出来事はなくなるといふことになります。
つまり、

ララ
ララはガラクタに戻る・・・そうですね？ オリビア
オリビア
・・・ごめんなさい。あなたには辛い思いばかり、

ララ
大丈夫です。顔を上げて、オリビア。オリビアはララに、素敵な日々を贈
ってくれました。あなたに出会わなければ、知ることのなかったことです。
ありがとう。本当にありがとう。

オリビア
・・・ごめんなさい・・・！！！！
ノア。

ノア
・・・だめだ・・・(背を向けてしまう)
こっちを向いてください。

ノア
できないよ・・・君がいなくなったら、僕はまた一人に戻ってしまう。
僕は、もう知ってしまったんだ。君と過ごすうちに、この世界がどんなに
素晴らしいものかを・・・知ってしまったんだよ！！！！

ララ
世界が素晴らしいことは、ララがいてもいなくても変わりませんよ？
ノア
(ララの方を振り返る) 君がいらないんじゃない意味がない！！！！

ララ
ノア。笑ってください。ララはノアには笑顔でいてほしい。

でも、

ノア　きつと街の人もわかってくれますよ？　まずは、笑顔で挨拶をするところから始めましょう！

ノア　できない、

ララ　できます。その次は踊りです。街の人はこれで絶対に笑顔になってくれます！

ノア　・・・そんなことできるわけないだろ？

ララ　・・・冗談です。そうだ。ララから一つ、お願い事をしてもいいですか。

ノア　・・・なんだい？

ララ　からくり人形を作ってほしいのです。

ノア　いいけど、

ララ　みんなを笑顔にできる可愛い人形にしてくださいね？　得意なことは踊ること。そうだ、オルゴールが流れるようにできますか？　ララには、

それがないのでいつもだれかに歌をお願いしていました。

ノア　・・・やってみる。

ララ　できるはずです。ララの知る限り、ノアは世界一の時計技師ですから。なんて言ったって、ララを直せるんですよ？　自信を持ってください。・・・大丈夫。いつかきつとあなたを笑顔にしてくれる人と出逢いますから

ララ、ノアの手を握る。

ララ　・・・ノア。素敵な毎日をありがとう。ララは、あなたに会えて、

幸せでした！

そういうとララは、ノアから離れていきオリビアの元へといく。

オリビア　・・・いいの？

ララ　はい。

オリビアは、意を決して魔法の書を開く。【本が輝く】

空間が、歯車の音で埋め尽くされる。

オリビア

リユニオン エクストラ オフオリビオーネ
忘却の彼方で再会を

オリビアが存在しない世界へと世界は還る。

【舞台上の登場人物は巻き戻しのよう動き始める】

ノア

ララ！！！！ 僕は君のことを！！！！

音楽が頂点に辿り着き、音が止まる。

その瞬間、舞台上のオリビアにだけ照明があたり、それ以外はシルエットになる。

場所…懐かしき夢の世界

人々

居場所がないのならここにいればいい

オリビア

あなたは確かにそう言った。私は魔女だから、ずっと人々の目を恐れ逃げて生きてきた。でも、あなただけは、ここにいていいと言ってくれた。初めて私の居場所ができた。

人々

一度でいい。五百年後の世界を見てみたい。それが叶うならいつ死んだって構わない

オリビア

人間の人生は、魔女の私たちと比べてとても短い。だから、最期の時には、この人に夢を見させてあげたい。500年先の世界はわからないけど、せめて、あなたが研究している解析機関がこの世界に完成した世界だけでも

人々

オリビア、

オリビア

チャールズ・バベッジ。私はあなたを愛しています。

M29…物語の終わり

舞台の明かり収束していき、零場へと戻る。

場所…エイダの駅前

音楽が流れ続けている。

蒸気機関車の音が劇場を駆け巡り、舞台上にスモークが立ち込めている。
エイダに人々が舞台上に現れる、雑踏と化していく。

大和の手を握った麗奈がやってくる。

大和は、麗奈を介護しながらアイザックを待っている。

今回は、なんのスクープを嗅ぎつけてきたのかレオは
教会に属しているエイミーを見つけ、取材をしている。

ティアとルカは、貧乏ながらも大道芸をしてお金を稼いでいる。
誰かに見てもらえるたびに2人は喜びあう。

全てはサイレントで行われる。

ノア、スクラップボックスを持ち、つくりと舞台上へと足を進めていく。

雑踏はノアのことを飲み込んでいき、

人々が過ぎ去ると台下に1人の少女がそこにいる。

雑踏はスローモーションで動き始める。

その少女は、この街の学生なのかたくさんの荷物を持って
こちらに歩いてくる。

少女は途中で転んでしまい、持っていた資料を地面にぶちまけてしまう。
それを目の前で目撃したノアは、人と関わりたくないが

しようがなく彼女の資料を拾うのを手伝う。

その際、スクラップボックスの中に入っていたカラクリ人形が落ちる。

エリー

ありがとうございます!!

ノア ああ、……うん。

そう言って去ろうとするノア。
すると、その少女から呼び止められる。

エリー あの、これ落としましたよ!!!

ノア ありがとう。

エリー ……素敵な人形ですね。

ノア ……失敗作だよ。上手くできないんだ。オルゴールを組み込むのが難しく
くてね。

エリー あの、……どこかでお会いしたことありませんか？

ノア え？ ……どうだろう。

エリーは何かを思い立ち、カバンの中から一冊の本を取り出す。

エリー あの、これ!!! 私、エリーっています。将来作家になるのが夢なんで

ノア す。これも何かの縁ですし、よかったです!

エリー (受け取る)

明日のこの時間にまたくるのでぜひ感想聞かせてください!あ、もう行
かなきゃ、それじゃ。

ノアは本のタイトルを読み上げる。

ノア 忘却の彼方で再会を

御伽話『忘却の彼方で再会を』

むかしむかし、あるところに“人間の自由に自由に動ける”からくり人形の少女がいました。少女は自分が何者で、どこから来たのかもわからず、一人ぼっちで歩き続けていました。

ある時、一人の時計技師の青年に出逢います。少女は言いました。

「愛は、どこにありますか？」

青年は、その質問に答えることができませんでした。彼もまた、愛を知らずに生きてきたのです。

似たもの同士の二人は、時計の針が進むようにゆっくりと距離を縮めていきました。日常が少しだけ色鮮やかに見え始めた頃、二人に闇が襲い掛かります。

争いです。この争いを終わらす手段は一つだけ存在していましたが、それは少女の終わりを意味していました。

少女はからくり人形でした。

少女は生命のないからくり人形でした。

少女は人間のように自由に動くことが出来ましたが、それは、いつときの奇跡に過ぎなかったのです。

少女は、青年に最期のお願いをします。

「どうか、あなただけは私を忘れないでください」

青年の記憶から少女と一緒に過ごした日々が、ひとつ、またひとつと零れ落ち、彼は、またひとりぼっちに戻ってしまいました。

彼は少女を探しました。

名前も顔も思い出すことのできない少女を探し続けました。少女から貰った大事なものを彼は無くさず、持っているのです。

そしてある時、彼は見覚えのある姿を見つけました。

2人の距離が近づいていくにつれて、失っていたあの日々の記憶が、想いが、ぼつりぼつりと心に花を咲かせます。

そして、青年は彼女にやっと伝えられなかった言葉の続きを言うことができたのです。

「ララ、僕は君のことを愛しています」

「私もあなたのことを——、」

終幕